

ニュージーランド準備銀行は政策金利を据え置き

- ニュージーランド準備銀行(RBNZ)は1.75%で政策金利を据え置き。物価統計を受けてインフレ低下の懸念が後退。
- RBNZ総裁は「相当な期間にわたって緩和的な金融政策を継続する」と述べ、現状の政策を当面維持する方針を示す。
- ニュージーランド経済は底堅さを維持。緩和的な金融政策、人口増加、個人消費や建設活動の堅調が景気を支援。
- 米トランプ政権の政策不透明感が残るものの、堅調な国内経済や乳製品価格の回復がNZドル相場を下支えへ。

NZ準備銀行は政策金利の据え置きを決定

ニュージーランド準備銀行(RBNZ)は2月9日の政策決定理事会において、大方の市場予想通り、政策金利を1.75%で据え置く決定を下しました。

2016年10-12月期の消費者物価上昇率(CPI)が前年比+1.3%とインフレ・ターゲットのレンジ内に回復し、足元でインフレ低下の懸念が後退しています。ウィーラーRBNZ総裁は理事会の声明において、「国内経済の堅調を反映し、インフレ率はターゲットの中心への緩やかな回帰が予想される」と述べました(図1)。

RBNZは現状の金融政策を当面維持する方針

ウィーラー総裁は今後の金融政策について、「相当な期間にわたって緩和的な金融政策を継続する」と述べ、現状の政策を当面維持する方針を示しました。今回の政策決定と同時に公表されたRBNZの四半期金融政策報告でも、RBNZの政策金利であるキャッシュ・レートは2018年末まで現行水準で横ばいの見通しが示されています。

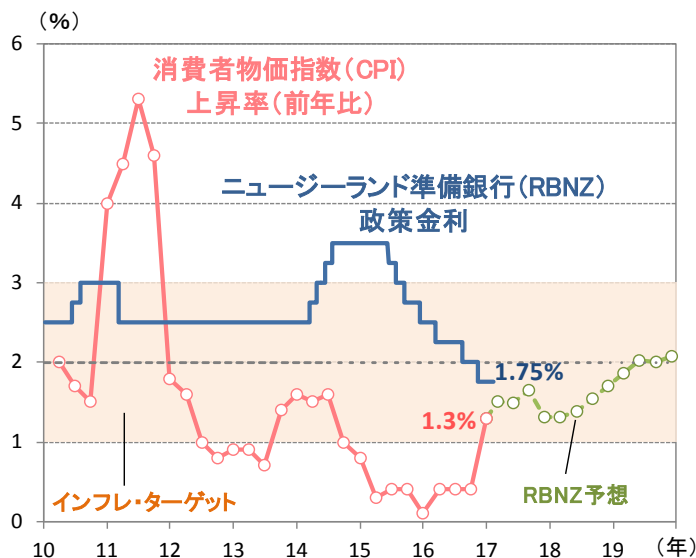
ニュージーランド経済は底堅さを維持

ニュージーランドの2016年7-9月期の実質GDPは前年比+3.5%となり、国内経済は底堅さを維持しています。ウィーラー総裁は声明文で、現在進行中の金融緩和、力強い人口増加、堅調な個人消費や建設活動などが景気支援要因となるとし、ニュージーランド経済の見通しに前向きな見方を示しました。

乳製品価格の回復がNZドル相場を下支え役に

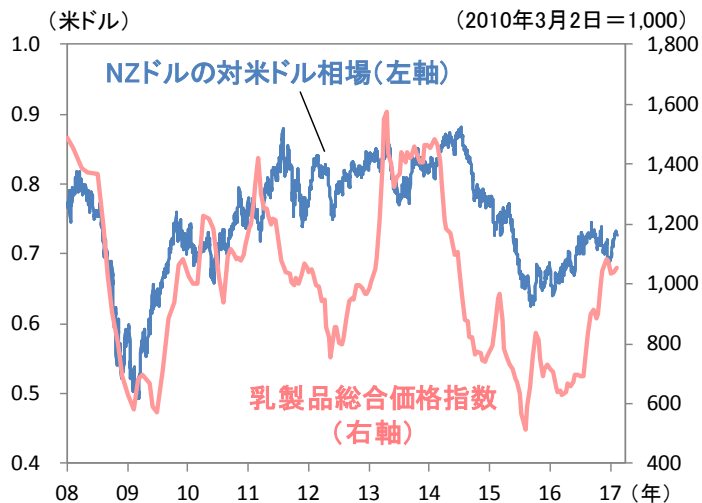
ニュージーランドの主要輸出品目である乳製品価格は、2016年後半以降、回復傾向に転じています(図2)。為替市場では、トランプ政権の政策の行方など海外動向の不透明感が残るものの、堅調な国内経済や乳製品価格の回復などがNZドル相場の下支え役になると期待されます。

図1:ニュージーランドの政策金利とインフレ率



(出所)ニュージーランド準備銀行(RBNZ)、ニュージーランド統計局
 (期間)政策金利:2010年1月1日~2017年2月9日
 CPI(実績):2010年1-3月~2016年10-12月
 (注)RBNZのインフレ予想は2017年2月9日時点。

図2:NZドル相場と乳製品価格



(出所)ブルームバーグ、GlobalDairyTrade
 (期間)2008年1月1日~2017年2月8日(乳製品価格は2月7日時点)

●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。